

「企業や個人のパートナーでありたい」

古里へ 経済人エール

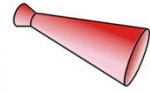


アクサ生命保険

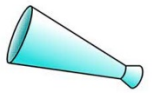
(東京都港区)

幸本 智彦副社長(58)

広島県府中町出身



「健康経営」普及に尽力 生産性高め中小元気に



中小企業を中心に、従業員の健康づくりに積極的に取り組む「健康経営」の普及に力を入れている。人手不足が問題になる中、従業員が健康で意欲的に働き、生産性が高まるよう後押しする。中小企業が元気でなければ地方は元気にならない。私の地元の広島県でも健康経営を広めるため、県、全国健康保険協会（協会けんぽ）、広島支部と協定を結んでいる。

電話相談や、仲間と励まし合って歩数などの目標に挑戦できるアプリ、運動の動画も用意している。取り組みの背景には、2000年に日本団体生命保険（東京）と経営統合した歴史がある。全国の商工会議所を通じて中小企業との取引などを引き継いだ。公益を最優先にして利益を上げる。皆美高で学び、東京の武蔵大に進んだ。合気道部に入り朝、昼、晩ときつい稽古に打ち込む日々。丸刈りに学生服で過ごした。卒業後、アリコジャパンに入社。国の社会保険制度を補う保険会社の公共性に魅力を感じた。

こうもと・ともひこ 武蔵大経済学部卒。1985年アリコジャパン（現メットライフ生命保険）入社。東京海上日動フィナンシャル生命保険などを経て2010年アクサ生命保険入社。11年から副社長。

その後は変額保険に興味を持つ。保障を確保しつつ、資産を株式や債券を中心に運用し、運用実績によって保険金などが増減する。当時、日本の生保の大半が定額保険。国民の資産形成の選択肢を広げたいと思い、北欧の保険会社の日本法人などを経て10年にアクサ生命保険に移った。

宮崎市で毎年春にある女子ゴルフツアー、アクサレディースゴルフーナメントを13年に立ち上げた仕事は印象深い。地域経済は、家畜に感染が広がった口蹄疫で打撃を受けていた。地元の提案を受け、スポンサーとして開催を支援するため社内調整に奔走。商工会議所やテレビ局と連携して実現した。資材などを地元企業で賄う地産地消で運営する。

当社は東日本大震災を機に、中小学校と高校の教員を対象に減災教育も進めている。日本ユネスコ協会連盟とプログラムを作り、宮城県気仙沼市などで研修を催し、広島県の学校からも参加している。教訓を未来につなげ、社会に貢献する。
(文・境信重、写真・浜岡学)

隔週の木曜日に掲載します。
次回は26日です。

※転載に際して中国新聞社の許諾を得ています。